

## 生まれ変わる県立奈良病院

現在、奈良市平松地区にある県立奈良病院が移転します。「どこに」「いつ」「なぜ」「どう変わるの」皆さんの疑問にお答えします。



新県立奈良病院のイメージ図



いつ、どこへ  
移転するの？

平成28年度中の開院を目指して、県立奈良病院は移転することになりました。新病院は、奈良市西部を流れる富雄川東側の六条山地区に建設します。



そもそもどうして  
移転するの？

現在の県立奈良病院は今年で築36年。設備の老朽化が問題になっていま

す。さらに地域の中で、軽症から重症・救急まで全ての患者さんに良い医療を提供するために、高度な医療をこれまで以上に専門とする中核病院が必要となりました。

今と同じ場所での建て替えも検討しましたが、主に以下の理由で、新しい場所に病院を建てる方が有効という判断をしました。

- ① これからの医療の急速な進展に対応できるように、六条山地区の広く余裕がある敷地が必要。
- ② 同じ敷地で建て替える場合、工事を行いながら診療を続けるため、患者さんへの悪影響が心配される。
- ③ 移転の方が工事期間が短く、より良い医療を早く提供できる。



これからどんな  
病院になるの？

新県立奈良病院は「救急医療」「がん医療」「周産期医療」「小児医療」「精神医療」「糖尿病治療」「災害医療」の機能を、



地域医療を支える7つの柱としていま  
す。中南和の県立医大附属病院と並び  
立つ、北和の中核病院として整備した  
いと考えています。

今後30年を見据えて、揺るぎない医  
療を提供し続けるために、次の3者全  
てから満足していただける病院を目指  
します。



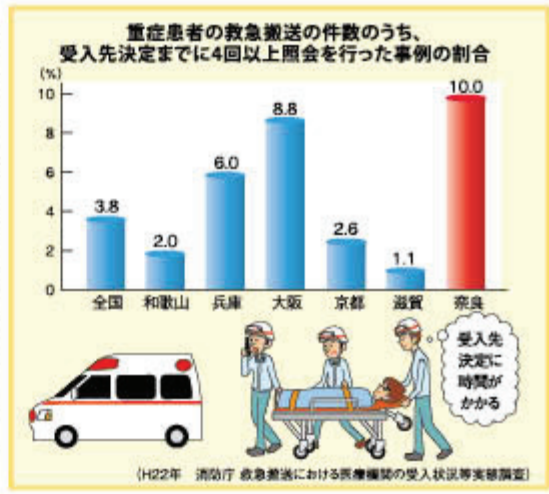
一刻を争う急病に  
なったときが  
心配です。

県では救命救急医療の改善を課題と  
しています。データから見た救命救急  
の状況は次のとおりです。

### 新病院での受け入れ目標

心筋梗塞	脳卒中
平成23年度実績 約50人/年	平成23年度実績 約300人/年
↓	↓
約130人/年	約550人/年

新県立奈良病院では、脳卒中や心  
筋梗塞など、命にかかわる重症救急  
患者を確実に受け入れる体制を整備  
し、救命率の飛躍的な向上を目指し  
ています。



### 新病院での受け入れ目標

がん

平成23年度実績 約1450人/年

↓

約2600人/年

ご存じですか？現在、北和地域に  
お住まいのがん患者さんの内、13%  
あまりが県外で入院しています。お  
見舞いに通う家族にとっても、大き  
な負担になっています。

今後増加が見込まれるがん患者に  
備えて、地域の医療機関と連携して、  
地域でがん治療を行える体制を目指  
します。

- 手術室の増室(7室→12室)
- 最新の放射線機器の導入
- 緩和ケア病棟の設置

がんの医療は  
どうなるの？

新病院は、ヘリポートの設置、災害  
時を想定した建物構造、専門性の高  
いスタッフの配置など、災害に強い  
病院として整備します。

また、災害時派遣医療チーム  
(DMAT)の育成に努めて、奈良県  
の災害医療の中心的な役割を果たす  
病院を目指します。

災害時に新病院は  
どう活躍するの？

	現病院	新病院
NICU (新生児集中治療室)	9	12
GCU (状態が安定した 赤ちゃんが過ごす部屋)	6	18
MFICU (母体・胎児集中治療室)	1	3

命に危険がおよぶ可能性のあるお母  
さんや新生児の受け入れ体制を充実さ  
せるため、設備を今よりも増やす予定  
です。リスクの高い妊婦の方も安心し  
てお産ができる環境を整備します。

出産に関係する  
設備は  
どうなるの？







エントランスのイメージ図

**六条山地区は  
どんな姿になるの？**

新病院ができる六条山地区は緑豊かな場所です。新しい病院はその地域の自然をできるだけ活かして、緑の中で癒される環境を整備する予定です。敷地に入った時から病気と向き合い、治療に取り組む意欲がわくような病院を目指します。

**働く環境は  
どうなるの？**

奈良県の人口10万人当たりの看護師の人数は928・6人で、全国40位（平成22年度）です。せっかく新しい病院ができて医師や看護師が不足していれば、最適な医療を提供することができません。

新県立奈良病院では良い医療を多くの患者さんに提供していくため、次のように、働き手が良い環境で長く働き続けられることも目指します。

**研修環境・体制の充実**

● 高度医療・救急医療の技術を学ぶ研修センターを整備します。

**ワークライフバランスの向上**

- 24時間院内保育所を整備します。
- 短時間勤務など、多様な勤務形態を導入します。
- 各種セミナーなどの充実により女性医師・看護師の復職を支援します。

**地域医療の分担って  
どういうこと？**

県では軽症の方から救急・重症の方まで、皆さんに最適な医療を提供するために、県内医療の分担と連携を進めています。

医療の分担とは、まず新病院が救急とがん医療を中心とした先進的・専門的医療によって、北和地域の拠点病院の役割を担います。そして地域の医療機関が、軽症や回復期の医療を担うというものです。

そのために、軽症の場合、基本的には、

まずは近所のかかりつけ医を受診する。

より詳しい検査や入院、手術など専門的な医療が必要と判断された場合には、新病院の専門診療科を紹介してもらう。

という流れの受診をお願いします。

**移転した跡地は  
どうするの？**

現県立奈良病院周辺地域については、これからの少子高齢化の進展を見据え、いつまでも安心して地域で住み続けられるまちづくりを目指し、地域の皆さんの声をお聞きしながら検討を進めていきます。

**知事からひとこと**

県の新しい医療体制づくりは一つ一つ動き始めています。中南和地域は県立医大附属病院と南和地域公立病院新体制が、北和地域はこの新県立奈良病院が、それぞれの拠点病院となって地域医療を支えます。

「奈良の医療は奈良で守る」体制を築いていくために、地域のかかりつけ医など、それぞれの症状に合った医療機関をご利用いただくよう、皆さんのご協力をよろしくお願ひします。

